

海業の推進について

令和7年2月12日
農林水産部 漁港漁村課

「海業」とは

- 「海業」とは、海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待されるものをいう。

海業（広義）

海業（漁村の振興に寄与するもの）

水産業

漁業

漁船漁業

養殖業

...

加工

流通

...

水産物の消費増進

- ・小売
- ・水産食堂 等

水産業を補完する交流促進

- ・漁業体験
- ・調理体験 等

...

左記に含まれない
再エネ発電業

左記に含まれない
製造業

左記に含まれない
観光業

...

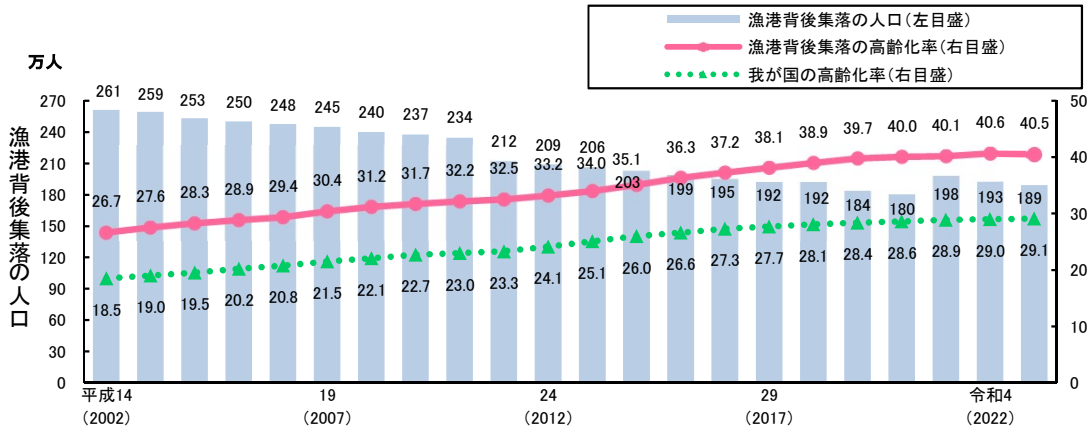
海業の推進について

- 漁村では、全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行し、活力が低下。一方、漁村の交流人口は約2千万人と大きなポテンシャルを有しており、漁村の賑わいの創出が重要。
- 豊かな自然や漁村ならではの地域資源の価値や魅力を活かした海業※の推進により、地域の所得向上と雇用機会の確保を図ることが必要。

※海業：漁村の人々が、海や漁村に関する地域資源の価値や魅力を活用して所得機会の増大等を図る取組

■ 漁村の交流人口及び交流施設の設置状況の推移

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
漁村の交流人口 (千人)	19,854	20,024	20,222	18,558	20,108	23,420
水産物直売所等の 交流施設 (箇所)	1,371	1,390	1,451	1,490	1,458	1,473



資料：漁港背後集落の人口推移と高齢化率は水産庁調べ、全国の高齢化率は総務省「人口計」（国勢調査実施年は国勢調査人口による）

(注1)高齢化率とは、各区分ごとの総人口に占める65歳以上の人口の割合。

(注2)平成23(2011)～令和2(2020)年の漁港背後集落の人口及び高齢化率は、岩手、宮城及び福島県の3県を除く。



■ 海業の場として漁港を活用



水産物販売施設



岸壁前に立地するレストラン



漁業体験



漁村の魅力を活かした宿泊(渚泊)



釣り体験



調理体験



水産基本計画(令和4年3月25日閣議決定)の基本的な方針



前計画

浜単位での所得向上による漁業の成長産業化や資源管理の高度化を推進

施策の方向性

〇産業としての生産性向上と所得の増大

①沿岸漁業については、「浜」単位での所得向上の取組の展開(浜プラン)

②沖合漁業・遠洋漁業については、国際競争力の強化

〇水産資源とそれを育む漁場環境の適切な保全・管理

〇水産業・漁村の持つ多面的機能の十分な発揮



情勢の変化

〇水産改革の実施

①漁業法の改正 → 科学的根拠(MSY)に基づく新たな数量管理の導入。それを実現するためのロードマップの策定(漁獲量444万トンの目標を設定等)

②養殖戦略の策定 → マーケットイン型養殖業への転換

③輸出戦略の策定 → 1.2兆円の水産物の輸出目標に向けた取組

〇自然環境・社会経済

①地球規模の環境変化

→ サンマ、イカ、サケ等の不漁の長期化 等

②SDGs等の環境問題への国際的な取組の広がり

→ カーボンニュートルの推進

③社会全体でのデジタル化の進展

④新型コロナウイルス感染症による社会経済活動の制限や個人の行動様式の変化

新計画

持続性のある水産業の成長産業化と漁村の活性化の実現

- ①海洋環境の変化への適応も踏まえた資源管理の実施
- ②持続性のある水産業の成長産業化
- ③漁業以外の産業の取り込みによる漁村の活性化の実現

✓第一の柱：海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施

●水産資源管理の着実な実施

・ロードマップに沿った着実な実行(IQ導入等)

●海洋環境の変化への対応

- ・海洋環境の変化を把握し、資源評価に適切に反映できる調査体制を充実
- ・さけ・ますふ化放流事業の改善等
- ・複数の漁法等による複合的な漁業への転換等

WCPFCによる太平洋クロマグロの資源管理



✓第二の柱：増大するリスクも踏まえた水産業の成長産業化の実現

●漁船漁業の構造改革

・複数の漁法等による複合的な漁業への転換等

●養殖業の成長産業化

・大規模沖合養殖システムの推進

●輸出拡大

・輸出目標の達成

●人材育成

・デジタル人材の確保・育成

●経営安定対策

漁獲対象種・漁法の複数化



沖底・いか釣り兼業船(兵庫県)
沖底といか釣り操業を組合せ、収益の安定化

大規模沖合養殖システム



ギンザケ養殖(鳥取県)
※日鉄エンジニアリング株式会社
大型浮沈式生簀や遠隔自動給餌システムによる省力化・生産性の向上

✓第三の柱：地域を支える漁村の活性化の推進

●漁業の振興に向けた漁協の連携強化、海業を含めた漁港の再編・拡充を通じた漁村の活性化

①市場機能の集約や漁協の事業連携などによる水産業の生産性向上、付加価値向上等による漁業の振興

②海業(うみぎょう)など漁業以外の産業の取り込みによる漁村の活性化

●各種施策の展開

①水産バリューチェーンの構築、IUU漁業対策など加工・流通・消費施策の展開

②藻場・干潟の保全など多面的機能の発揮、漁場環境の保全等

③防災・減災、国土強靱化

水産物の直販施設



漁村での体験・宿泊(渚泊)



※海業とは、海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの

漁港漁場整備長期計画（令和4年度～令和8年度）のポイント

重点課題

目指す姿と主な施策

主な成果目標

産地の生産力強化と輸出促進による 水産業の成長産業化

ア 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ◆ 圏域計画に基づく産地市場等の集出荷機能や製氷施設等の準備機能等の再編・集約
- ◆ 漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増深
- ◆ 輸出先国の基準・ニーズに対応した高度衛生管理や安定供給のための漁港機能の強化

イ 養殖生産拠点の形成

- ◆ 養殖適地の拡大のための静穏水域の確保・活用、漁場環境の改善
- ◆ 種苗の確保から加工・流通に至る一体的な施設の整備

- 流通拠点漁港において、総合的な衛生管理体制の下で取り扱われる水産物の取扱量の割合
45% (R3) ⇒ おおむね70% (R8)
- 漁港・漁場整備や漁港の活用を図る養殖生産拠点地域において、生産の維持・拡大により確保する養殖生産量
おおむね100万トン 等

海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による 持続可能な漁業生産の確保

ア 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ◆ 漁獲対象魚種の多様化に対応した漁場整備
- ◆ フロンティア漁場整備や水産物の生活史を踏まえた広域的な水産環境の整備等の資源管理の取組と連携した漁場整備
- ◆ ハード・ソフト一体的な藻場・干潟対策

イ 災害リスクへの対応力強化

- ◆ 大規模地震・津波等に備えた漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化、浸水対策
- ◆ 漁港・漁村における就労者等の避難対策
- ◆ 機能保全計画に基づく、予防保全型の老朽化対策への転換

- 水産資源の回復や生産力の向上のための漁場整備による水産物の増産量 **5年間でおおむね6.5万トン**
- 藻場の保全・創造の取組を実施する**全ての海域**において、取組実施箇所の**藻場面積を維持・回復**させる
- 流通拠点漁港における、被災後の水産業の早期回復体制が構築された漁港の割合
27% (R3) ⇒ おおむね70% (R8) 等

うみぎょう

「海業※」振興と多様な人材の活躍による 漁村の魅力と所得の向上

ア「海業（うみぎょう）」による漁村の活性化

- ◆ 地域の漁業実態に即した施設規模の適正化と漁港施設の再編等による漁港の利活用環境の改善
- ◆ 漁港と地域資源を生かした「海業（うみぎょう）」等の振興と漁港に関連産業を集積させるための仕組みづくり
- ◆ ポストコロナを見据えた渚泊やワーケーション等の交流人口・関係人口の創出

イ 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ◆ 越波防止や防風施設整備等の安全対策の推進
- ◆ 浮体式係船岸や岸壁、用地等への屋根整備など軽労化施設の整備
- ◆ 漁村における漁業集落排水施設や漁業集落道など、快適な生活環境の整備

- 漁村の活性化により都市漁村交流人口を増加
5年間でおおむね200万人
- 漁港における新たな「^{うみぎょう}海業」等の取組件数
5年間でおおむね500件

※海業（うみぎょう）：海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業をいい、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの

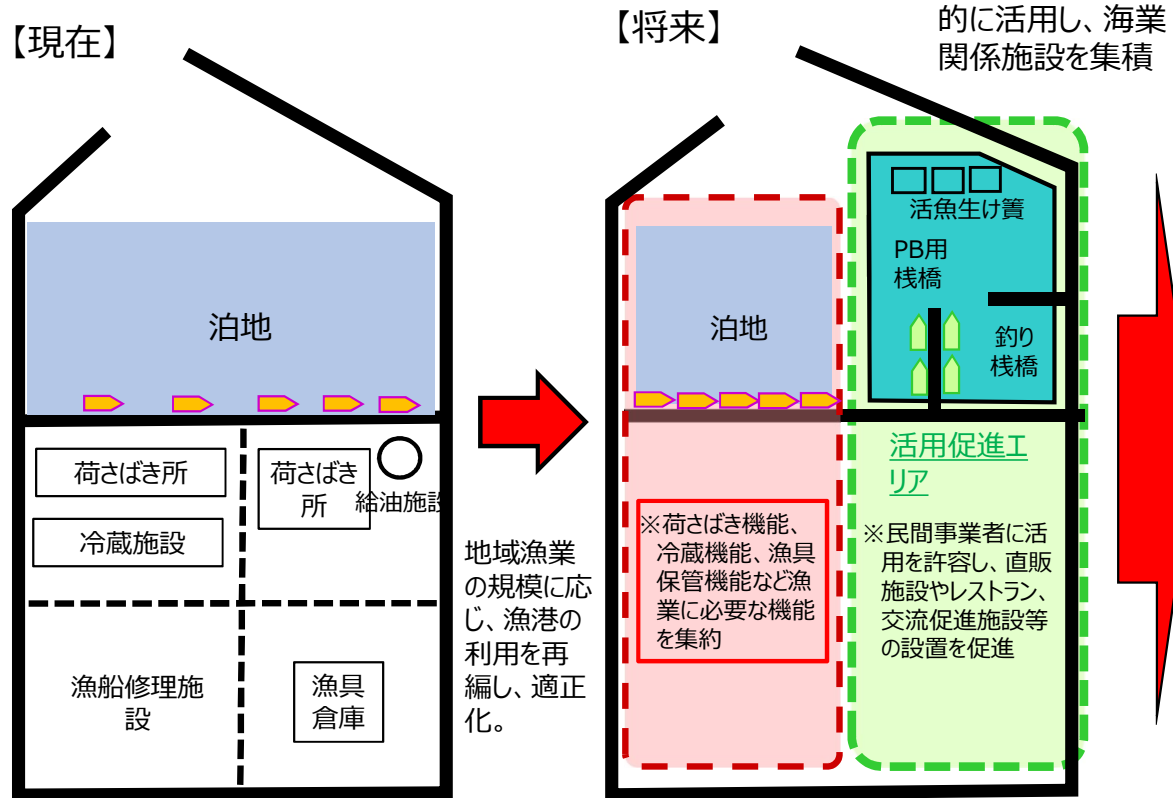
（共通課題）社会情勢の変化への対応

- ・グリーン化の推進（設備等の電化、給電施設の整備、省エネ対策、再生可能エネルギーの導入、藻場の保全・創造 等）
- ・デジタル社会の形成（産地市場の電子化の普及、海域環境観測システムの活用、ICTやドローン・ロボット技術の活用促進 等）
- ・生活スタイルの変化への対応（消費者ニーズに対応できる水産物の提供体制づくり、衛生管理と併せた感染症対策、移住・定住や交流の受入環境づくり 等）

海業の推進に向けた漁港の利活用イメージ

- 地域漁業の規模にあわせて水産業に必要な機能を集約し、施設規模の適正化と漁港施設の再編・整理を実施。
- 地域の理解と協力の下、水産物の消費増進や交流促進など、地域の水産業を活性化する取組を促進。

■ 漁港における海業推進のイメージ



地域の漁業実態にあわせ、漁港施設の再編・整理、漁港用地の整序等により、海業の場として活用するスペースを創出。



漁業体験



養殖いかだ見学



直販施設



PB用棧橋（フィッシャリーナ）



漁港施設内に立地するレストラン



カキ小屋



水産物の消費を促す宿泊施設



直売所

令和6年度の県の取組

(1) 海業ビジネスモデルづくり支援

自走可能な海業の取組を創出するため、海業計画に基づく実施プログラムのコンサルティング及び実証試験（モニターツアー）によるビジネスモデルの構築を支援。

① 大槌町吉里吉里地区ほか 主な体験内容

- ・ ウニ漁業体験
- ・ 調理・実食体験



ウニをむいて 食べて学ぶ
海とウニの体験教室
IN 大槌町

7/27 (土)
7/28 (日)

1泊4食付き
往復 貸切バス (盛岡駅発着)

ウニの漁獲&ウニ剥き体験
海岸で海の宝探し!

漁師直伝の技を教えてもらえる!
吉里吉里漁港で海の生き物のお勉強会をしよう!

主催：岩手県農林水産部 漁港漁村課
運営：株式会社雨風太陽
問い合わせ：☎03-5843-1859 (平日 10:00-18:00)

お申し込みは
こちらから→

1名：18,000円
親子：大人 15,000円
小人 12,550円



② 山田町織笠地区ほか 主な体験内容

- ・ カキ等漁業体験
- ・ 調理・実食体験



牡蠣が育つ現場で食べて学ぶ
三陸シーフードの調理&体験教室
in 山田町

11/9 (土)
11/10 (日)

1泊4食付き
往復 貸切バス (盛岡駅発着)

牡蠣の殻剥き体験
魚介類の調理体験もできる!

漁船に乗って牡蠣養殖の現場を見学
牡蠣とお酒のマリアージュも楽しめる!

主催：岩手県農林水産部 漁港漁村課
運営：株式会社雨風太陽
問い合わせ：☎03-5843-1859 (平日 10:00-18:00)

お申し込みは
こちらから→

1名：20,000円
親子：大人 18,000円
小人 15,000円



令和6年度の県の取組

(2) 海業普及啓発

海業の理解醸成を図るため、漁業者や関係団体等を対象に、全国の先行事例の紹介や課題解決に向けた意見交換などを行うシンポジウムを開催。

日 程： 令和6年12月10日（火）

場 所： 釜石市民ホール TETTO

参加者： 県内の漁業関係者、市町村職員 等（106名）

内 容： ① 基調講演

水産庁職員による海業の概要や全国事例等の講演

② ディスカッション

海業振興モデル地区※の取組紹介及び意見交換

※ 愛媛県愛南町、和歌山県太地町漁協、大槌町

令和6年度海業推進シンポジウム

海業（うみやう）とは、海や漁村の地域資源の価値や魅力を活かした事業で、地域に誇りや所得と雇用を創出するもの。

挨拶 岩手県知事 達増 拓也

基調講演
テーマ 「海業の推進による漁村の活性化について」
講師 水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課課長補佐 劔崎 聖生 氏

ディスカッション
メインテーマ 「海業振興モデル地区の取組」
MC (一財) 漁港漁場漁村総合研究所常務理事 伊藤 靖 氏
パネリスト 愛媛県愛南町水産課海業推進室長 浜辺 隆博 氏
「水産基地A I N A N」が取り組む海業について
和歌山県太地町漁業協同組合専務理事 貝 良文 氏
「海業を活用した太地町漁協の取組について」
大槌町産業振興課主事 芳賀 諒太 氏
「大槌町が取り組む「海業」について」
水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課課長補佐 劔崎 聖生 氏

と き 令和6年12月10日（火） 参加無料（先着順）
13:00～15:30（開場 12:30）

ところ 釜石市民ホール TETTO ホールB
（釜石市大町1-1-9）

お問い合わせ 岩手県農林水産部漁港漁村課
お申し込み TEL：019-629-5828 FAX：019-629-5824
E-mail：AF0014@pref.iwate.jp

